

2019年度通常枠と2020年度コロナ緊急支援枠で採択された事業の内容

・2019年度通常枠と2020年度コロナ緊急支援枠を比較すると、前者では「コミュニティ」や「企業・ビジネス」の事業数が多い一方、後者では「就労」や「ひとり親・シングルマザー・父子・母子」の事業数が多い。

※2020年度通常枠については公募・選定中(本年3月末時点で19の実行団体を採択)。

<2020年度コロナ緊急支援枠(暫定版)>

延べ216団体が行う216事業のうち、以下の文言に言及している事業を集計。(1事業で複数の文言に言及しているものも含む)

子・子ども・子供 くうち子ども食堂	71事業(33%) <14事業>
障害・障碍・障がい	29事業(13%)
孤立・孤独	29事業(13%)
就労	29事業(13%)
居場所	27事業(13%)
ひとり親・シングルマザー・父子・母子	22事業(10%)
農・農業・農福	16事業(7%)
外国人	16事業(7%)
高齢者	15事業(7%)
企業・ビジネス	12事業(6%)
災害・防災	6事業(3%)
ホームレス	5事業(2%)
コミュニティ	4事業(2%)
まちづくり	1事業(1%)

注) ()内は216事業に占める割合。

<2019年度通常枠(暫定版)>

延べ142団体が行う142事業のうち、以下の文言に言及している事業を集計。(1事業で複数の文言に言及しているものも含む)

子・子ども・子供 くうち子ども食堂	37事業(26%) <6事業>
居場所	23事業(16%)
障害・障碍・障がい	20事業(14%)
コミュニティ	17事業(12%)
孤立・孤独	16事業(11%)
企業・ビジネス	15事業(11%)
就労	14事業(10%)
災害・防災	9事業(6%)
外国人	8事業(6%)
まちづくり	6事業(4%)
農・農業・農福	5事業(4%)
高齢者	5事業(4%)
ひとり親・シングルマザー・父子・母子	2事業(1%)
ホームレス	2事業(1%)

注) ()内は142事業に占める割合。